

国際協力海外レポート

川井 ゆか（かわい ゆか）【JICA 青年海外協力隊】

赴任地：ヨルダン・ハシミテ王国 アンマン
職種：日本語教育
赴任期間：2013年4月～2015年4月（予定）



ヨルダンってどんな国？

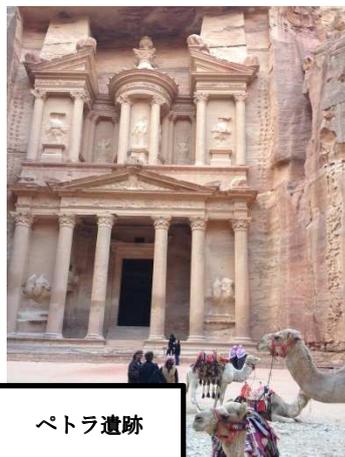
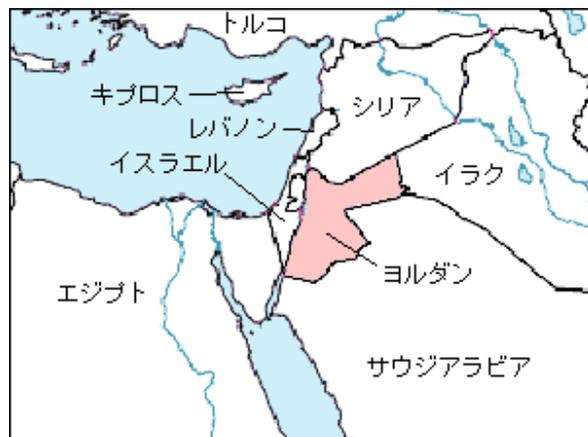
ヨルダンという国を皆さんご存知でしょうか。

中東地域にあり、北はシリア、東はイラク、南はサウジアラビア、そして西はイスラエル・パレスチナと紅海を挟んでエジプトに隣接しています。シリアやエジプトという近年紛争が続いていて“危ない所”というイメージが強いかもしれませんが、ヨルダンは中東の中でも平穏で安全な国です。パレスチナ難民やシリア難民を受け入れ、中東和平に重要な役割を果たしています。

国土は日本の約4分の1、人口約620万人で、国民の9割以上がイスラム教徒の国です。

中東といえば産油国のイメージですが、残念ながらヨルダンは非産油国で産業は発達しておらず、観光や近隣諸国への出稼ぎ、諸外国からの支援が主な収入源です。

旅行が好きな方なら、死海がある国だということを思い出されるかもしれません。それ以外にも、ローマ時代の遺跡、広大な砂漠と岩山など、実は観光地としての見所がたくさんあります。



ペトラ遺跡

死海。対岸はイスラエル



ジェラシュ遺跡



首都アンマン

ヨルダンの日本語教育

私は青年海外協力隊の日本語教育隊員として、2013年の4月からこちらで活動しています。活動先は

ヨルダン大学と、一般向けの日本語教室の2ヶ所です。

日本から遠く離れた中東の国でどうして日本語が学ばれているのか、不思議に思われるかもしれませんが、こちらでは日本のアニメや漫画、ゲームなどの文化が想像以上にたくさん入っていて、子供から大人まで楽しんでいます。日本人よりも詳しい人が多いぐらいです。日本語を学んでいる人のほとんどがそういった日本の文化に興味を持っている人達です。中には柔道や空手などの武道に興味を持ち、道場に通っている人もいます。

教室で日本語を学ぶ学習者は現在 100 名ほどですが、インターネットなどを利用して独学で学んでいる人もたくさんいます。

授業の他に、日本文化紹介のイベントも開催しています。書道大会や浴衣体験、日本語弁論大会など、毎回たくさんの方が参加して楽しんでいます。

日本語を通してヨルダンと日本の架橋となってくれる人が一人でも多く出てきてくれることを願っています。



書道大会



ヨルダン大学の授業風景

ヨルダンの料理

ヨルダンの食事について少しご紹介します。

こちらではアラブ料理が一般的に食べられています。イスラム教の国ですので、豚肉は食べません。鶏肉や牛肉、そして羊肉をよく食べます。魚介類はあまり食べませんが、売られています。豆類を使った料理も多いです。野菜や果物も豊富にあり、夏には大きなスイカがゴロゴロと道端に並べて売られています。

また、お米もよく食べます。日本人にはありがたいことです。中でもヨルダンの代表的料理といえばマンサフです。ご飯の上に羊肉とナッツ類をのせ、チーズ風味のソースをかけて食べます。クセがあるので好き嫌いが分かりますが、家庭で作られるマンサフは美味しいです。お客さんが来たときに振舞われます。



ヨルダンの代表料理、マンサフ



シュワルマ。肉を回しながら切る

最後に

ヨルダンの人達に「日本といえば？」と聞くと、たいていトヨタ、日産といった自動車メーカーの名前が出てきます。「技術力が高く、マナーの良い国」というのが一般的な日本のイメージのようです。日本ではまだよく知られていない中東の国ヨルダンですが、日本の文化を愛し憧れている人達がここにはたくさんいます。日本の方々にもヨルダンの文化に興味を持っていただけたら嬉しく思います。

2014/6/5 JICA 青年海外協力隊員 川井 ゆか